

中野駅新北口駅前地区における基盤整備の進捗状況について

中野駅新北口駅前地区で整備を計画しているペDESTリアンデッキ、駅前広場等の基盤施設については、中野駅地区整備基本計画（平成30年第3回定例会報告）に基づき基本設計を進め、昨年度、関係機関とも基本的な協議を整え成果をとりまとめている。現在、これらを基に独立行政法人都市再生機構（以下、「UR都市機構」という。）及び東日本旅客鉄道株式会社（以下、「JR東日本」という。）への委託により実施設計に着手しており、令和6年度の工事着工へ向けて協議、調整を進めている。

今回、ペDESTリアンデッキを含む交通広場の基本設計と整備に向けた取り組み状況などについて以下のとおり報告する。

また、新北口駅前地区ではこれら工事のため歩行者の迂回措置や工事ヤードの展開など順次進める予定であり、これらに関しても適時報告していく。

1. 駅前広場の計画概要

- ①都市計画名称 補助223号付属交通広場
- ②都市計画面積 約19,700㎡（嵩上げ部約3,200㎡を含む）
- ③都市計画経緯 昭和37年12月22日 都市計画決定
平成31年 3月28日 都市計画変更（最終）
- ④都市計画認可 平成27年 8月 7日 事業認可（当初）

2. 駅前広場の基本設計

別紙1「中野駅新北口駅前広場基本設計」のとおり

3. 協定事業（事業範囲図参照）

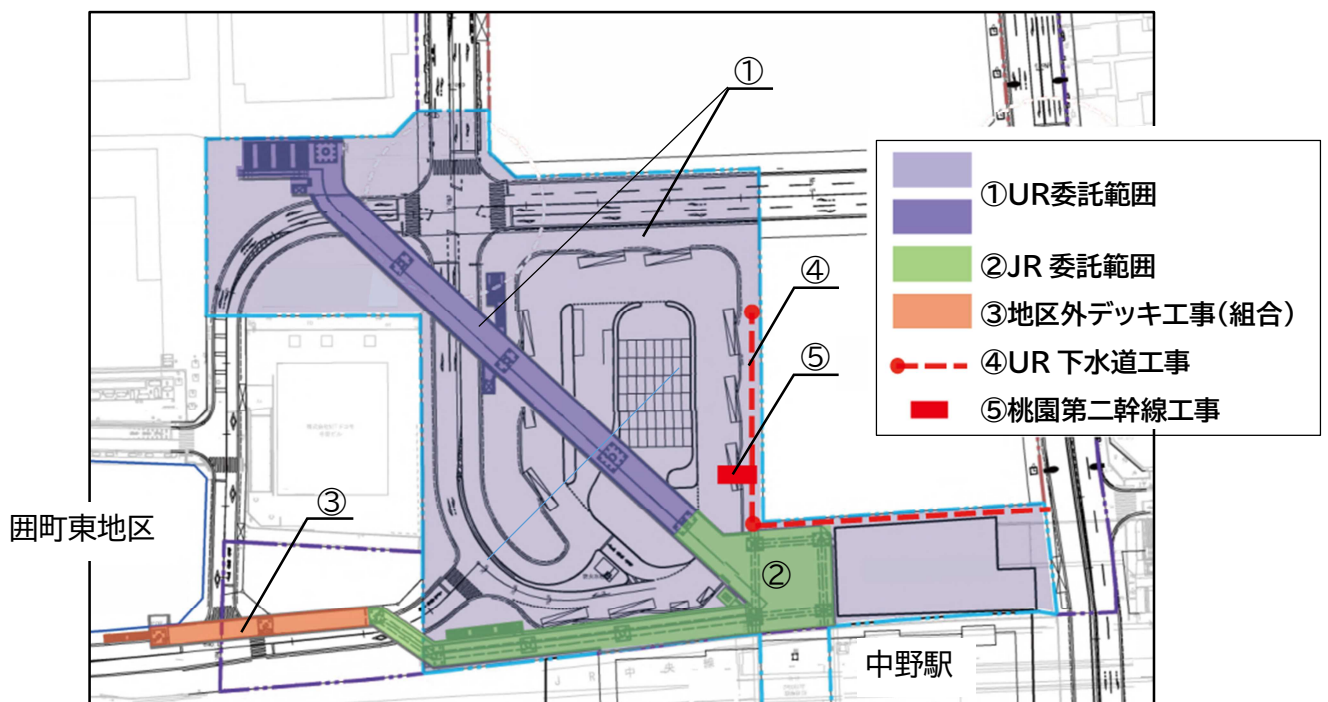
当該駅前広場の整備については、事業の効率的推進を図るため当該駅前広場を含む中野四丁目新北口駅前土地区画整理事業の施行者であるUR都市機構へ実施設計及び整備を委託することとし、令和4年11月15日付、実施設計に関する協定を締結した。

なお、鉄道敷に近接するペDESTリアンデッキ（エントランスデッキ及び中野四季の都市（まち）方面及び囲町方面の各デッキの一部）の実実施設計と整備については、鉄道近接施工であること、南北自由通路や駅舎の工事ヤードとの関係などによりJR東日本へ委託することとし、令和4年12月20日付、実施設計に関する協定を締結した。

さらに、囲町デッキの西側区間（地区外デッキ）については、囲町東地区市街地再開発事業と連携した歩行者ネットワークの形成と、事業の効果的、効率的な実施を目途に当該再開発組合へ設計、整備を委託することとし、実施へ向けた協議を進め、令和5年5月16日付、実施設計に関する協定を締結した。

現在、UR都市機構及びJR東日本、中野区による三者連絡調整会議にて協議、調整を図りながら実施設計を進めている。今後は、囲町東地区も含めて調整を進めていく予定であり、令和5年度末のとりまとめを予定している。

事業範囲図



4. 関連工事（事業範囲図参照）

新北口駅前地区では、3の事業に加え今年度、東京都下水道局による第二桃園川幹線取水人孔の整備、UR都市機構による区画整理事業の関連工事として下水道本管の切り回し工事が予定されている。

第二桃園川幹線は豪雨（時間50mmを超える雨量）の対策の一環として調節池機能等により既存下水管の負荷軽減を図り低い地域での浸水被害軽減を目的としたものであり、区の駅前広場の雨水排水等とも連携することから、円滑な進捗が求められている。

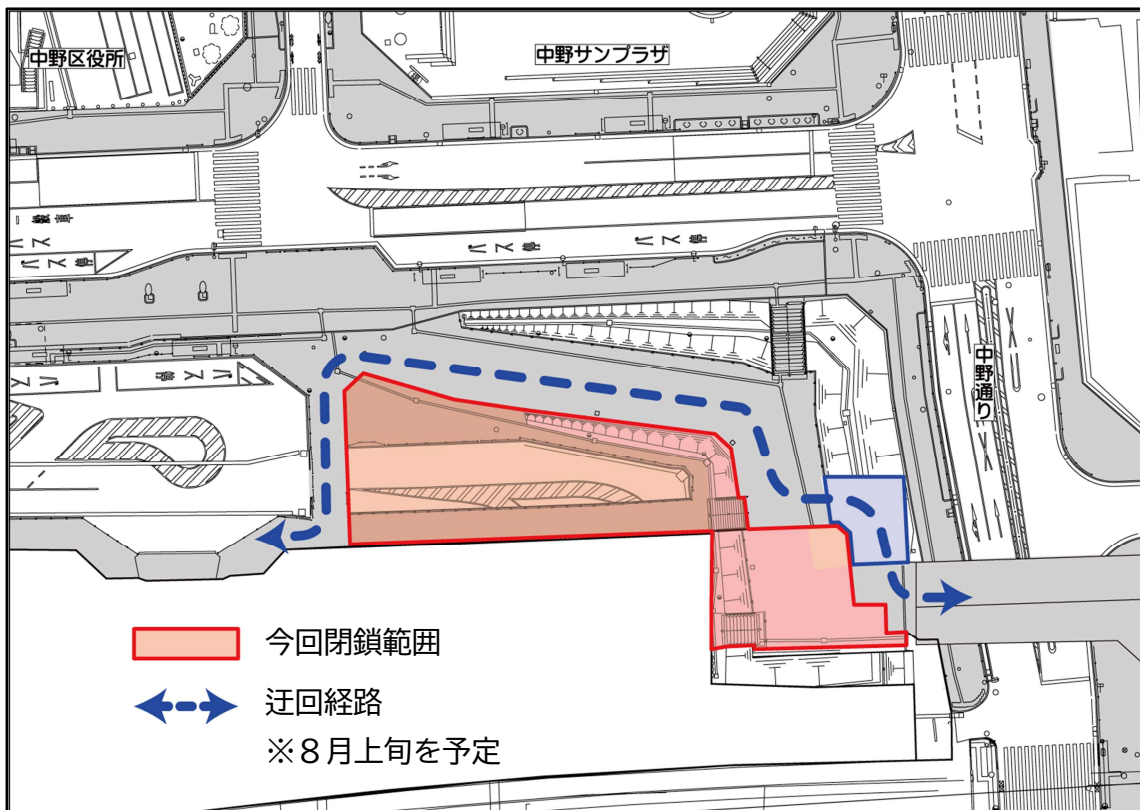
5. 歩行者迂回路整備等

中野駅西側南北自由通路及び中野駅橋上駅舎等事業に伴い、東西連絡路の一部歩行者通路について迂回歩道構台の整備をJR東日本が進めており、当該構台

を利用した一部迂回措置を予定している。

また、4の関連工事や、これに続くペDESTリアンデッキ、駅前広場の整備へ順次着手するため、歩行者の安全性と工事の進捗を図るため、一部の歩行者通路の閉鎖を行う必要があることから、東西連絡路の一部とあわせ8月上旬を目途に迂回措置を予定している。

迂回措置図



なお、これら迂回措置に際しては、現地に案内を掲示すると共に関係者へ説明周知を図り、駅周辺の歩行者空間として安全な通行の確保を図る。

さらに、今後、ペDESTリアンデッキや交通広場の整備を進めるため、順次迂回措置を進める必要があり、関係機関と協議を図り、北口駅前地区の利便性に配慮しながら安全な迂回措置を計画し事業を進めていく考えである。

これらについては、予め適時適切な時期に報告と周知を図る考えである。

6. 今後の工事展開（別紙2「中野駅新北口駅前地区工事ヤード展開図」参照）

現在、中野駅新北口駅前地区では中野駅西側南北自由通路及び中野駅橋上駅舎等事業による工事ヤードが展開されているが、今後、ペDESTリアンデッキや交通広場の整備を行うため、まずは現在の区役所敷地を活用した仮設バス停の整備を進める。

新北口駅前地区での工事ヤードはJR東日本に加え、UR都市機構、関連する占用事業者の各工事を円滑に進めるため必要な空間であるが、中野駅新北口改札開業

時に必要な基盤施設が整うよう通行の安全性と利便性にも配慮しながら、効果的、効率的に工事ヤードが展開できるよう各事業者をはじめ関係機関とも調整、連携を図りながら検討を進めていく。

7. 今後の予定

- | | |
|--------|---|
| 令和5年7月 | 下水道局桃園第二幹線工事着手
UR都市機構下水道本管工事着手 |
| 令和5年8月 | 東西連絡路の一部歩行者通路の迂回措置
仮設広場内の一部歩行者通路の閉鎖と迂回措置 |
| 令和6年 | 区役所解体、仮設バス停整備工事
中野税務署解体
ペDESTリアンデッキ工事着手 |
| 令和7年 | 中野税務署跡地インフラ移設工事 |
| 令和8年 | 中野駅新北口改札開業 |
| 令和11年 | 中野駅新北口交通広場供用開始 |

◆中野四季の都市ゲート広場

「中野四季の都市の豊かな緑が顔を出すエントランス」

【中野四季の都市との空間・緑の一体性】

- ・中野四季の都市のエントランスとして、にぎわい・緑の一体的な調和を意識した空間とする。

【歩行者滞留空間の確保】

- ・中野五丁目につながる主動線の起点となる滞留空間を確保する。

◆新北口交通広場

「円滑に乗換えのできる開放感のある交通結節空間」

【乗り換えのしやすい交通広場の整備】

- ・電車、バス、タクシー等を円滑に乗り換えることのできる空間とする。
- ・ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適に利用できる空間とする。

【植栽の配置】

- ・交通機能に配慮しつつ、シンボルとなる植栽の配置等により、景観に配慮した緑豊かな空間とする。

【デッキ下の開放感の確保】

- ・デッキ下は、明るく開かれた印象となるよう配慮した空間とする。

【周辺施設からの見え方への配慮】

- ・駅ホーム等、周辺施設からの見え方に配慮した空間とする。

◆新北口歩行者広場

「まちのエントランスとしての出会いの空間」

【歩きやすい動線の整備】

- ・東西連絡通路からつながる空間として、ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適に通行できる動線とする。

【出会いの広場と連携した広場空間の形成】

- ・新北口歩行者広場と出会いの広場は、歩行者動線を確保しつつにぎわいや憩いのスペースに配慮し、一体感のある空間デザインとする。
- ・地域のイベント利用等も視野に入れた空間とする。

【周辺施設からの見え方への配慮】

- ・駅ホーム等、周辺施設からの見え方に配慮した空間とする。

◆新北口歩行者デッキ

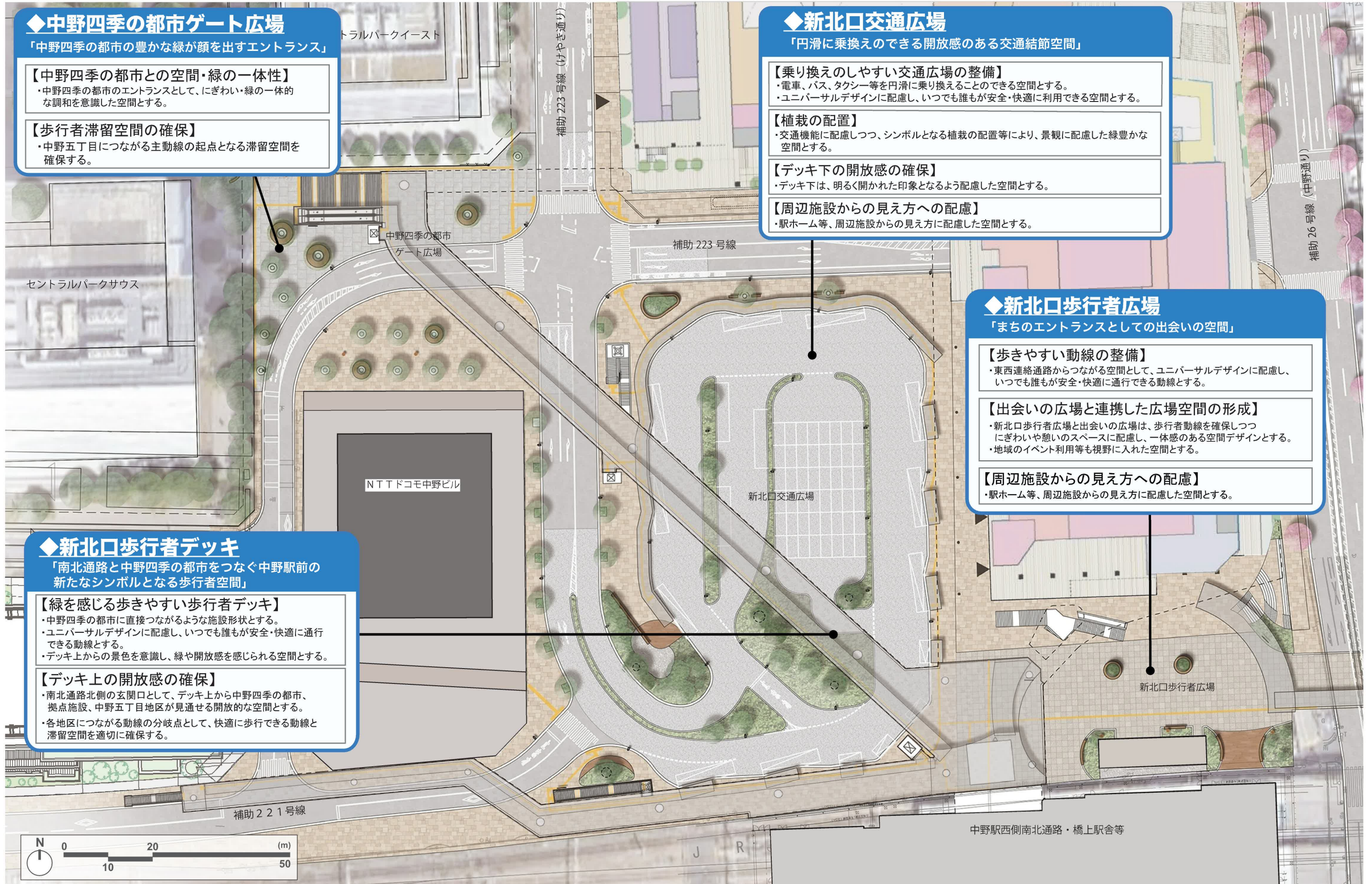
「南北通路と中野四季の都市をつなぐ中野駅前の新たなシンボルとなる歩行者空間」

【緑を感じる歩きやすい歩行者デッキ】

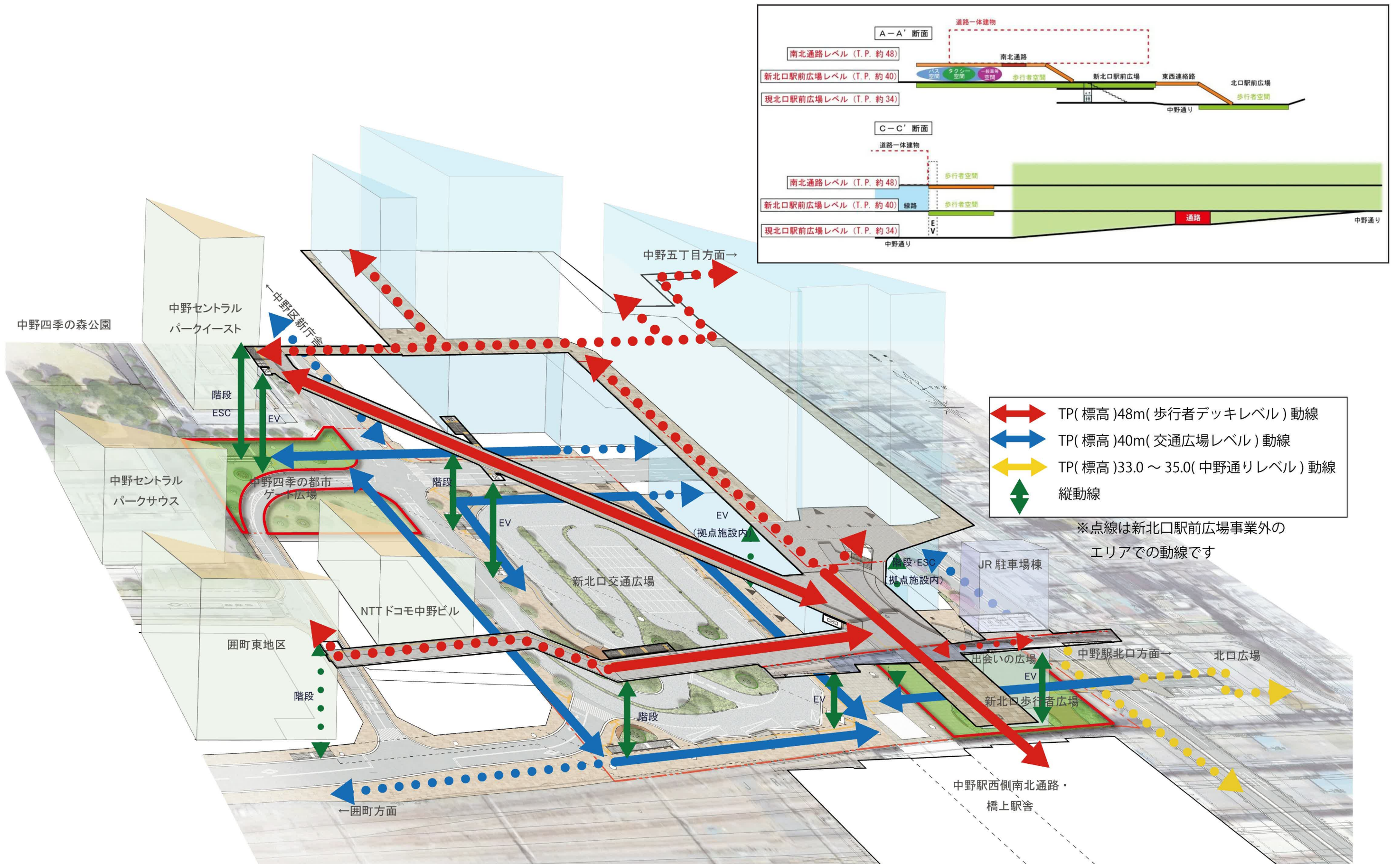
- ・中野四季の都市に直接つながるような施設形状とする。
- ・ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適に通行できる動線とする。
- ・デッキ上からの景色を意識し、緑や開放感を感じられる空間とする。

【デッキ上の開放感の確保】

- ・南北通路北側の玄関口として、デッキ上から中野四季の都市、拠点施設、中野五丁目地区が見通せる開放的な空間とする。
- ・各地区につながる動線の分岐点として、快適に歩行できる動線と滞留空間を適切に確保する。



中野駅西側南北通路・橋上駅舎等



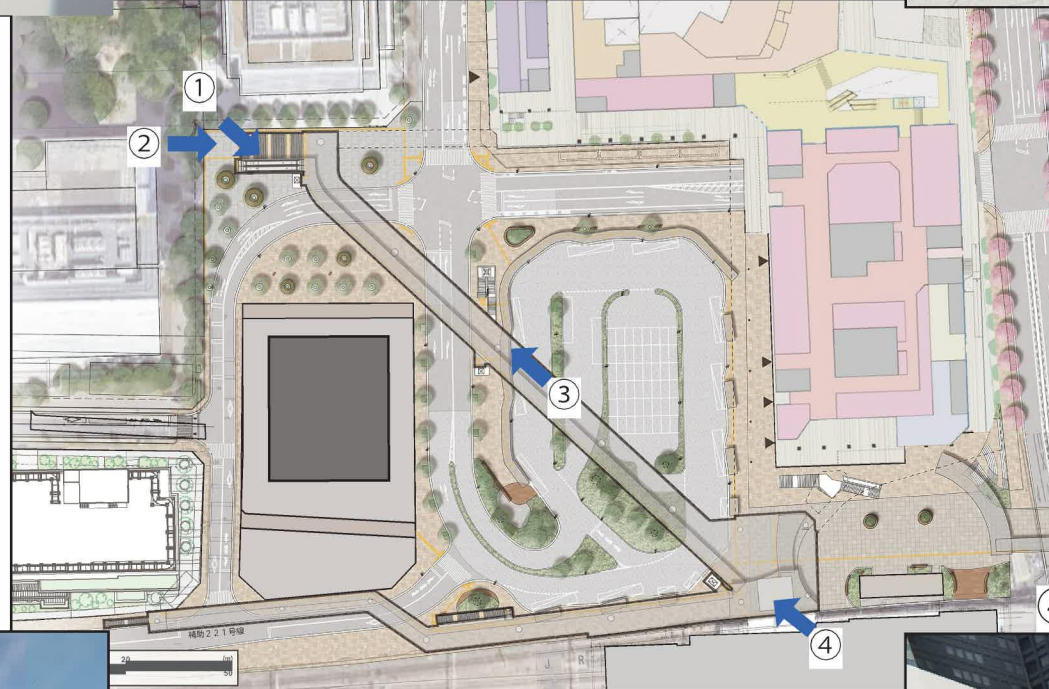
①新北口駅前広場全体（北西側からの鳥瞰パース）



②ゲート広場



③四季の都市デッキ（南東側からの透視パース）



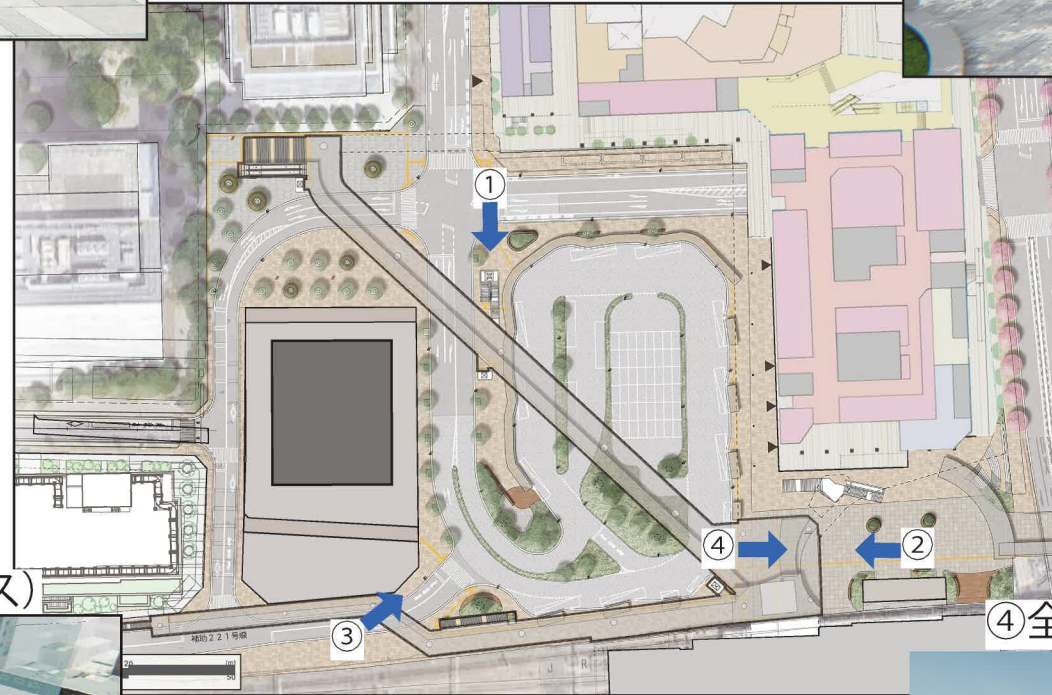
④新北口駅前広場全体（南東側からの鳥瞰パース）



①交通広場（北西側からの俯瞰図）



②新北口歩行者広場（西側からの透視図）



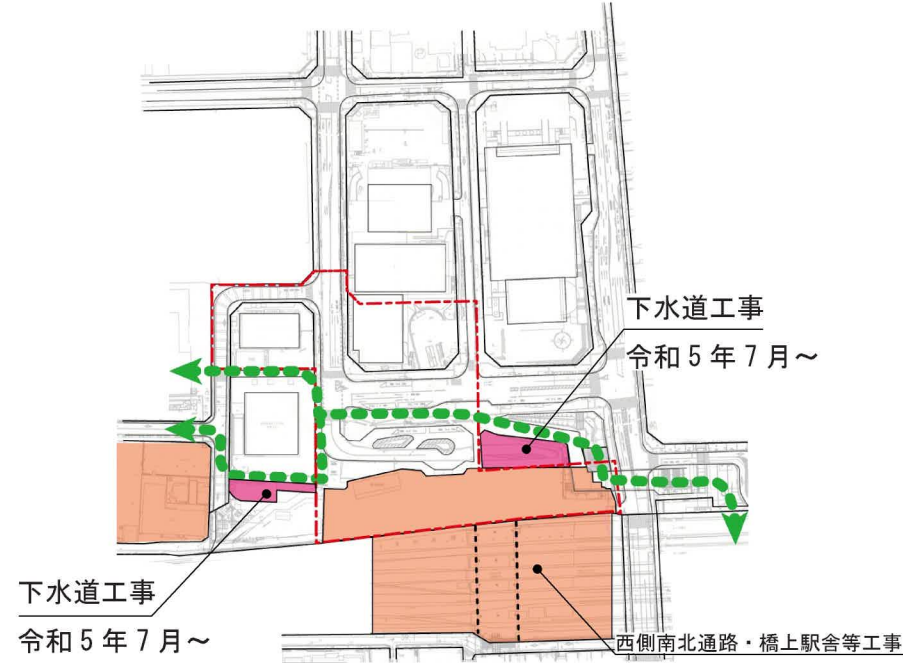
③新北口駅前広場全体（南西側からの鳥瞰パース）



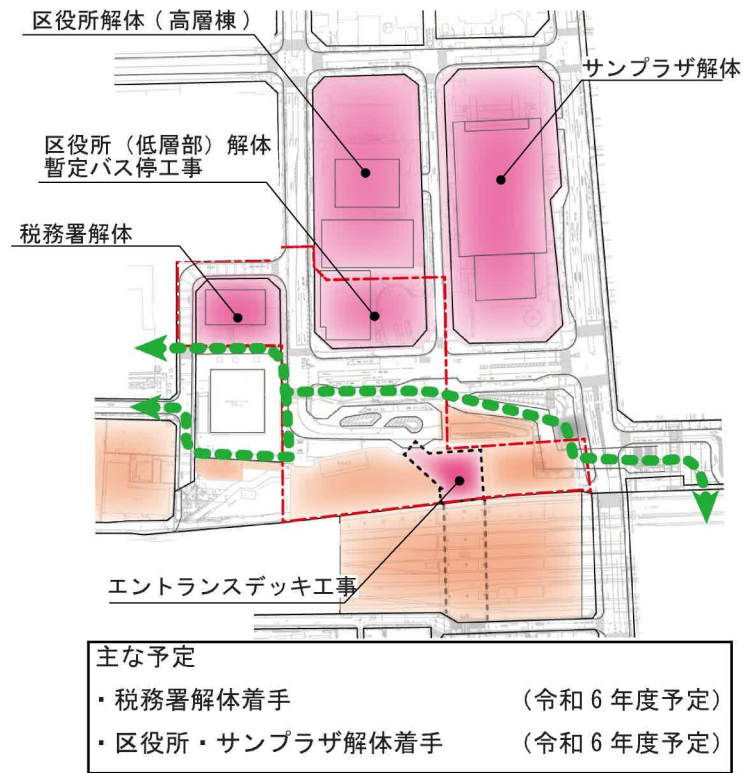
④全体俯瞰図（南東側からの俯瞰図）



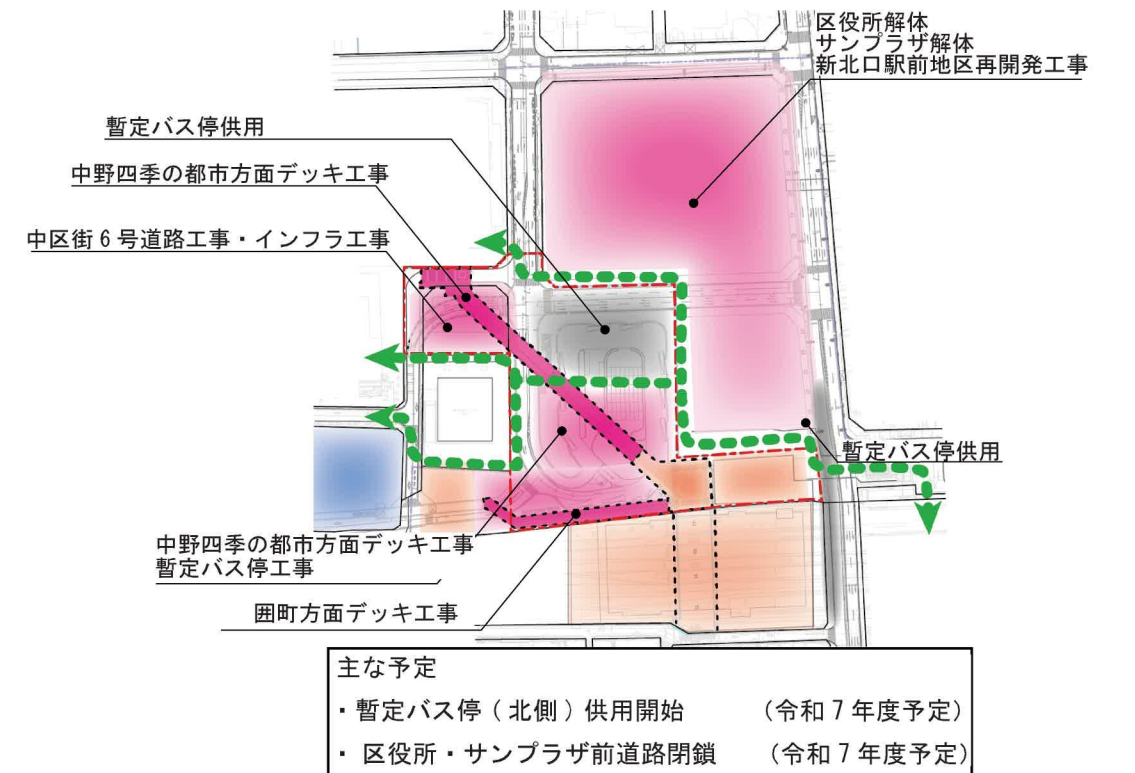
令和5年7月～



STEP① 令和5～6年度



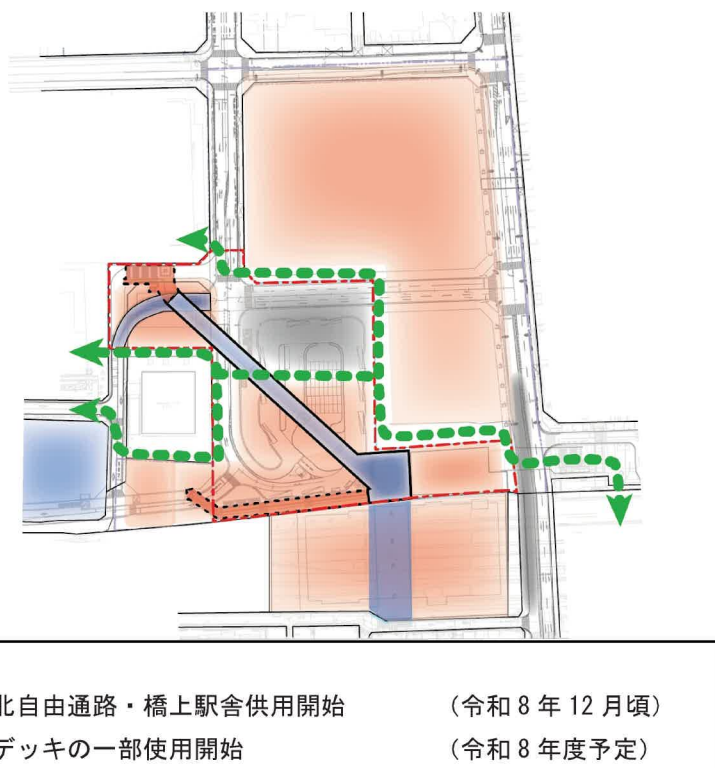
STEP② 令和6～7年度



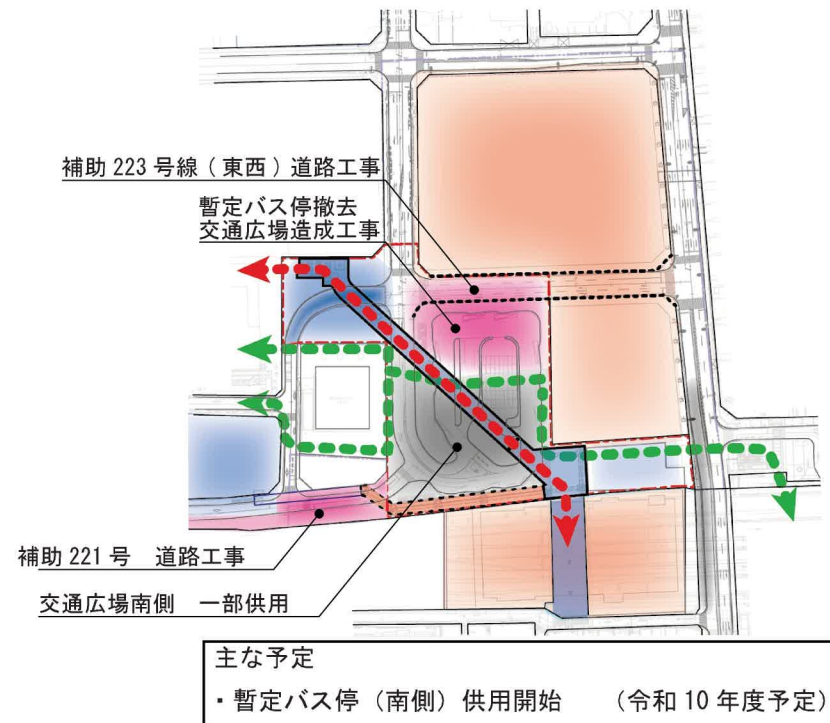
凡例

- 工事着手 (Pink)
- 工事中 (Orange)
- 工事完了 (Blue)
- 供用中 (Grey)
- 歩行者動線 (Green dashed arrow)
- 歩行者動線 (Red dashed arrow)

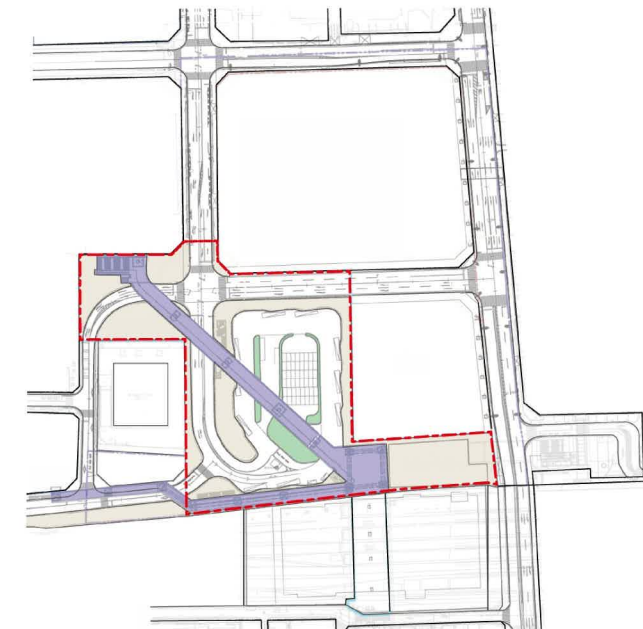
STEP③ 令和7～8年度



STEP④ 令和8～11年度



完成 令和12年3月



基本設計段階における施工ステップ（案）です。今後実施設計において、施工計画等を精査して決定していきます。